

## 不登校児童生徒への対応事例 2（小学校第 5 学年男子）

### ～相談機関での面談による家庭・学校と連携した不登校の初期対応の取組～

#### 問題の把握

9月上旬、当該児童の靴にいたずらされたことについて、保護者より電話相談を受けた。当該児童は、いたずらされた原因に思い当たることがなく、大きなショックを受けており、周囲の誰かがいたずらしたと考えると、学校にいたことがつらくなり、学校を休みがちの状況となった。

9月中旬、保護者及び当該児童と面談を実施した。

#### 対応状況

##### ○相談の内容

相談状況	相談内容、相談機関の回答内容等
電話相談	<ul style="list-style-type: none"><li>・当該児童の母親から、当該児童が靴にいたずらされたことでショックを受け、学校を休みがちになり悩んでいるとの相談を受けた。</li><li>・<u>状況の確認と解決に向けた方向性について話し合うため、面接相談を勧めた</u>ところ、保護者と当該児童が話し合い、当該児童と保護者が一緒に面接相談を受けに来る意向を示した。</li></ul>
面接相談	<ul style="list-style-type: none"><li>・当該児童から、いたずらされた原因として思い当たることがなく、驚いたことやショックを受けたこと等を聴き、当該児童のつらい気持ちを傾聴した。</li><li>・学校を休んでから、毎朝、担任が電話をかけてくれるが、当該児童は、その際、両親から学校へ行くように言われるのがつらいという気持ちを把握した。</li><li>・欠席の理由を、体調不良と説明してもらっているが、<u>友だちが心配して連絡をくれることを嬉しく思う</u>気持ちや少年団の大会が近い練習へ参加したい気持ちがあることなど、<u>登校への意欲を示す</u>発言もみられた。</li><li>・当該児童には、<u>保護者や学校の先生、友だちに気持ちを率直に話し、つらい気持ちに折り合いをつけ、登校することについて話し合う</u>ことを助言した。</li><li>・保護者には、これまでの当該児童の気持ちに寄り添った対応を称賛するとともに、これからも<u>当該児童の気持ちを受け止め続ける</u>ことが大切であることを助言した。</li><li>・<u>相談機関から学校に対して相談内容を伝え、今後も相互に連絡を取り合いながら対応していく</u>ことを保護者に確認した。</li></ul>

##### ○家庭や学校との連携の内容

- ・当該児童及び保護者の了解の下、学校と情報交換を行い、当該児童の気持ちを踏まえた相談体制の確立や登校した際の関わり方の工夫、家庭と学校との役割分担の明確化等を進めることについて確認した。
- ・学校において、当該児童の悩みをじっくりと相談できる場面を設定してもらうとともに、当該児童の気持ちや状況について、家庭と学校が情報を共有しながら当該児童に働き掛けることを確認した。
- ・当該児童が登校した際には、当該児童の状況に応じて、教室や別室で学習したり、生活したりすることができるよう学校の指導体制と環境を整えることを確認した。

#### 不登校の問題に対応するためのポイント

- ・できるだけ早い段階で相談者が相談しやすい環境を設定し、相談者との信頼関係を構築して対応を進めること。
- ・保護者と学校との間で児童生徒にどのように対応するかなど、十分に共通認識を図った上でそれぞれの役割を明確にして対応するよう促すこと。
- ・登校開始後も保護者、学校、相談機関が連携し、児童生徒への支援を継続的に行うこと。